

## あぶらそそ 油注がれた者 もの

エジプトを出たイスラエルの民は、オリーブの茂る豊かなカナアンの地に定住することができました。

オリーブの実から取れる油は、穀物、ぶどう酒とならんで、神がイスラエルの民に恵まれた食べ物であり、神の祝福のしるしと考えられていました。油は、食べ物だけでなく、身体を強めたり、傷をいやしたり、また、光としても用いられてきました。

「油注がれた者」は、ヘブライ語の「メシア」、

ギリシヤ語の「キリスト」という言葉の意味です。

旧約聖書において、「油注がれた者」は、王、祭司、

預言者に使われています。油注がれることは、神の霊

によってある職務に任命されることを表わしていて、

民の中で神の代理者としての役割をふさわしく果た

すことができるように聖別されるのです。

イザヤは福音と解放を告げるために、洗礼者ヨハネ

は神の道を整えるためにそれぞれ預言者としての

召命を受けました。預言者たちは、その当時の「油

注がれた者」である王であっても、神に対して不忠実

であると判断すれば、きびしい態度を示しています。

私たちキリスト者もまた「油注がれた者」です。

洗礼及び堅信の秘跡の時に、神の霊を受けたしるしとして聖香油を受けました。

イエスの時代の人々は、「油注がれた者」へ多くの

期待を持っていました。しかし、イエスはそうした

人々の期待に答えないで死んでしまいました。

私たちも「油注がれた者」が何とかしてくれると

期待するのではなく、私たち自身が「油注がれた者」

として、預言者の役割を果たしていくように努力する

必要があります。私たちはどのような働きができるか、思いつくことを書いて下さい。

